

日本印象記 I

—外国人天文学者による—

世界の天文学者の分布を見ると、アメリカ・ヨーロッパ（東欧諸国を含む）に集中していて、アジア地域では日本が例外的に多い。このような状況のもとでは、他国の天文学者との交流は日本人天文学者がアポロ計画で景気の良かったアメリカに行く事によって保たれてきたと言っても過言でないような時が長く続いた。

しかし、近年、学術振興会による外国人招聘の可能性がほんの少しばかり増えた事や、日本の近隣諸国でも天文学に力を入れ始めたので（又、日本の天文学の実力が世界に認められ始めたのもあろうが）、割に外国人天

文学者が日本を訪れるようになり、又、長期に滞在する人の数も増えている。

そこで、目下滞在中の方々に日本（日本の天文学界）の印象記を書いてもらい、今までの外国人の中の日本人とは違った印象の日本（天文学界）が表現されるのではと編集部では期待して、この企画を行った。

まず、今月は東京大学理学部で連星系の研究をしている金氏、京都大学工学部で銀河系の構造の研究をしているソレンセン氏に書いてもらった。

(編集部)

日本留学の雑多感想

東京大学天文学教室 金斗煥

まずこの機会に3年前の来日以来無事勉学に励む事が出来たことに付き国費留学生の世話役皆さんと天文関係の方々から厚くお礼を申し上げておきたいと思えます。地理的、歴史的にも地球星では一番近い隣の国から留学しただけにぼくかなりの期待と予想が沢山有ったに違いありません。日常生活の有り様や社会構造、物の考え方等はずい分似ているが半面、ぼくの想像以外の異常(?)もよく見当るので修論準備の最中だけれどちょっとその事についてお話しして見たいと思えます。紙面の限りがあるので筋合が立たない話になるかも知れませんが理解していただければ幸と思えます。

4月のなかば雨の羽田空港に着いた翌日さっそく一人で生れ初めての地下鉄で本郷東大に行きました。地下鉄を降りて外に出ると圧迫されていた胸が急に飛ぶように軽くなりました。初めは健康に悪いと思った事もあるが東京のような複雑な大都会では地下鉄の存在は欠けられない便利な物だと考え直しました。昨年ソウルでも地下鉄が開通したがいつか帰国して地下鉄を乗れば日本で初めて乗った時の思い出が浮ぶでしょう。

東大正門をはいった瞬間錯覚を起しました。茶色の建物とか銀杏の樹木を見ているとソウル大学に逆戻りしたようでした。両方とも昔の帝国大学の風格でした。どの世界、どの時代でも有るかのようには愚かな一部特権層の非良心的な国扱いの歴史の結果が今ここにも残されていると思うとこれからもこのような不運の歴史を繰り返さないよう国民一人一人が努力しなければならぬと再三思われました。



左より谷川・出口・金・井口
野球の後のビールパーティー

次に驚いたのはキャンパスの回りがあまりにも不潔だった事です。どこにでも汚い字の張り紙とかビラ等がくずで汚ごされていました。初めは理解できなかったが日本はデモとストライクの天国である事が分かりました。例の春闘は何時頃終止符を打つか先ざき期待しています。

日本の電鉄は揺れないし郊外に出る時も本当に便利になっています。人の心まで気楽に成ったせいとか若者で席を譲る人はごく少ないと思えます。何か熱心に見ています。車内で何か読んでいる乗客が多いのにびっくりしました。出版、言論界等のマスコミが盛んである事も理解できます。来日間も無い頃だったがある日スマートな背広姿の紳士風の若者が何かまじめそうに読んでいるのを見て彼に対し好感を持ちながらそばよってのぞいて見ると何んと子供が好きそうな漫画を見ているのではありませんか! 今見るとそれは大人用の漫画である事が分かりました。今だに不思議に思っています。それと同じ位